

組合役員の資質向上・連帯強化、組合求心力向上を求めて —「第8回ユニオンスクール」を開催—



講師：鈴木晴彦さん

グループワークの様子

10月1日(土) 倉吉市・伯耆しあわせの郷で、20代・40代の比較的若い組合員約60名の参加のもと「ユニオンスクール」を開催しました。

今回のユニオンスクールは、組合役員の資質向上・連帯強化、組合求心力向上を目的として、具体的には、
①働く者の権利、労働組合の必要性など「労働運動の意義」
②コーチングコミュニケーションによるリーダーシップと人材育成
③労働者福祉向上の歴史と取り組み(労働金庫、全労済の起源など)
について学習を深めました。

まず、主催者を代表して五十嵐会長があいさつと、基調講演を行いました。
基調講演では、政策実現、税制・社会保障制度などにおけるナショナルセンターとしての連合の役割や、連合のコンセプトである「働くことを軸とする安心社会」を具体的にわかりやすく解説し、雇用(働くこと)を中心として安心の橋をかけ、人々が生き生きとした、活力ある社会を創っていくことが私たち連合がめざす社会であると力説しました。

続いて、(財)富士社会教育センターから鈴木常務理事を講師としてお迎えし、「働く者の権

利」「労働組合の必要性と存在価値」「労働運動の社会的役割」についてユーモアを交えた講義とグループワークで学習しました。

午後からは、コーチングコミュニケーションの基本を習得し、魅力的なリーダーとしての行動や好ましい対人関係づくり、リーダーに求められる人材育成のための人間力を講義とワークシヨップで身につける学習を行いました。

最後に、労働金庫、全労済から講師をお招きし、それぞれの誕生の生い立ちや労働者福祉向上の取り組みを紹介していただき、ユニオンスクールの全日程を終了しました。

参加者のみなさんから、「グループワークやワークシヨップを通じて、労働組合の必要性を楽しく学んだ。本日の内容を単組の学習会で展開していきたい。」「労働組合が中心となつてつくった労働金庫、全労済について職場の推進役となり取り組みたい。」などの感想をいただきました。

ユニオンスクールフォト特集



基調講演の様子



五十嵐会長

講師／中国労働金庫倉吉支店
松浦次長講師／全労済鳥取県本部
中野執行役員ワークショップ
の様子

感想をいただいた方々



「2012年度連合鳥取政策・制度要求」鳥取県各部・局と交渉を実施



希望と安心の社会づくり
ニッポンの原動力・連合
すべての働く者のために頑張る!

8月2日(火)、「希望と安心の社会づくり」をめざし、25本の政策、52項目からなる「2012年度連合鳥取政策・制度要求」を五十嵐会長が平井鳥取県知事へ手交しました。その後、8月29日(月)・9月5日(月)・9月12日(月)の3日間、それぞれの要求内容について県の担当部局(11部局)と交渉を行いました。

各交渉の冒頭、五十嵐会長が連合の考え方、すなわち「これまで連合がめざすべき社会のあり方として掲げてきた『労働を中心とした福祉型社会』を再認識しつつ、『働くことを軸とする安心社会』を実現する取り組み」について説明しました。また、田中副事務局長が「これらの要求は、組織化された労働者の立場を超え、『県民』『生活者』の立場からの要求である。」との主旨説明

を行い、今回の要求・提言を是非とも県行政に活かされたい旨発言しました。続いて、それぞれの政策担当者が個別事項について説明し、県側と一問一答形式で建設的な意見交換を行いました。

今や、均等・均衡待遇も実現しないままに非正規雇用者は急速に増加し、雇用労働者の3割を大きく超えている中で、社会保障制度も十分に機能せず、格差や貧困が拡大し、ワーキングプアといわれる人が富の配分が歪んだ事態で深刻化し、社会の不条理を根本から問い直す事が求められています。鳥取県においても労働者の雇用はもとより県民の生活自体が脅かされています。

その中で連合鳥取は、経済・雇用対策等に労働組合として社会的責任を果たし、地域のナショナルセンターとしての役割を果たすことが喫緊の課題と位置づけ、今後、「労働の尊厳」「労働の価値」を軽視してきたこれまでの経済政策や社会政策を転換させ、人々の希望に繋がる安心社会を築くために全力をあげていきます。本政策要求に關しての県回答は後日文書にて示されます。

組合員の親睦・交流で連帯の強化をめざそう!! 「第20回連合鳥取杯親睦ゴルフ大会」を開催

9月17日(土)、大山アークカントリー倶楽部において組合員と事業団体のみなさん総勢77名の参加のもと「連合鳥取杯親睦ゴルフ大会」を開催しました。



優勝の中野さん(左)と五十嵐会長

この大会は「構成組織の組合員相互の親睦と交流を深め、連帯の強化を図る取り組み」として開催してきており、今年で20回目を迎えることができました。

当日は、あいにくの雨の中での開催となりましたが、楽しく体を動かし日頃のストレス解消と懇親の場となりました。成績は次の通りです。(敬称略)

◇優勝	中野 敦	(全労済鳥取県本部)	GROSS 88	HDCP 18.0	NET 70.0
◇準優勝	若月 哲郎	(紙/連合王子製紙新労働組合米子支部)	GROSS 76	HDCP 4.8	NET 71.2
◇3位	沢本 敬彦	(紙/連合王子製紙新労働組合米子支部)	GROSS 76	HDCP 3.6	NET 72.4

平和行動 各種集会に参加

■竹島集会に参加

連合中国ブロック『第5回竹島領土権確立を求める集い』が9月2日(金)、労働会館(松江市)で140人の参加のもと開催され、連合鳥取からも4名が参加しました。

はじめに、島根県総務部・小室 僚 管理監から「最近の竹島問題について」と題し、最近の韓国側の動きや日本政府の主張、島根県の基本的姿勢・解決に向けての報告がありました。その中で「国会の意思は明確であり、請願採択(2006.6.16衆参両院本会議請願採択)後5年が経過した。国会・政府が動き出す時期ではないか。」と述べられました。

また、島根県竹島問題研究会・伊藤博敏委員による基調講演「学校における竹島教育について」では、島根県小中教育現場での竹島に関する学習の実態、文部科学省の動向(学習指導要領)等、竹島学習の成果と課題について提起され、「今後、学校が孤立することなく、領土問題解決は国の責任において積極的に取り組む必要がある。」と指摘されました。



■平和行動in根室に参加

9月10日(土)～11日(日)、「連合平和行動in根室」が開催され、連合鳥取からは小椋副会長を含め5名が参加しました。

10日は「北方四島シンポジウム」と「北方四島学習会」が開かれ、北方四島の現状や問題点などを学習し、北方領土問題への認識を深めることができました。

11日は納沙布岬で「2011平和ノサップ集会」が開催されました。この日は天候にも恵まれ、歯舞群島の島々はもとより、遠くに国後島も見ることができ、日本固有の領土である北方領土の近さを実感しました。



安心・信頼の社会保障制度を確立しよう

鳥取高退連「第19回定期総会」を開催

鳥取高退連「第19回定期総会」は、9月21日(水)、水明荘(湯梨浜町)において代議員28名、役員18名、来賓7名が出席し、「第19回定期総会」を開催しました。当日は、台風15号の接近により交通機関への影響を心配しましたが、参加者の集まりも良く定時には開会できました。

例年通り、総会前段には「全県学習会」として、日本高年齢退職者団体連合の羽山治美事務局長により「政府・与党に提出した退職者連合重点課題とその実現」と題して講演いただきました。また、「年金・医療など社会保障と税の一体改革」「当面のスケジュール」など、3・11震災復興の中にあっても将来の社会保障全体の流れについて学習しました。

引き続き開催した総会では、磯江智昭代議員(私鉄日ノ丸退職者会・中部)を議長に選出し、日置会長から「今年正月の豪雪から始まって自然災害の多い年に当たっている中で、3地区協会のこの1年間の取り組みに対する感謝」と「新年度の課題への抱負と活動への協力要請」「会員の長寿のための健康づくりの実践」が提起されました。続いて、五十嵐連合鳥取会長から連帯のあいさつを、湯原俊二衆議院議員、川上義博参議院議員はいずれも国会会期中のため代理



講師：羽山治美さん



最後は磯江議長より「安心・信頼の社会保障制度を確立しよう」の大会スローガンを確認し、総会を終了しました。(寄稿 鳥取高年齢退職者団体連合事務局長 秋田 忠さん)

の方からメッセージをいただき、早速議事に進みました。経過報告では、政権交代から2年で高退連の要求は果た現れていませんが、「私たちはかつての自公政権の独善と横暴の政治は二度と望みません」という「与党としての民主党」を中心とする政権を支持し、支援して平和憲法を守り、「安心と信頼の社会保障制度を確立しよう」を基本線とする姿勢を提起するとともに、この1年間の県高退連ならびに3地区協会の活動を報告しました。続いて、会計決算・監査報告、そして2012年度活動方針(案、予算案)を一括して提案しました。代議員から「組織拡大につながる機関紙のあり方の検討を求める」意見をいただき、すべて原案通り可決・決定されました。

「連合島根・連合鳥取女性委員会合同研修会」に参加

9月23日(金)～24日(土)、米子コンベンションセンターにおいて「連合島根・連合鳥取女性委員会合同研修会」が開催され、連合鳥取から14名参加しました。

研修会では電機連合中央執行委員の斉藤千秋さんによる基調講演「女性と労働組合」、グループ討議などが行われ、組合役員として、働く女性として日頃抱えている様々な課題について語り合い、交流を深めました。

「『女性リーダー研修会』なんてなんだか難しそう…」と少し身構えて参加しましたが、講演が始まってみるとそんな不安は杞憂で、大変楽しい時間を過ごさせていただきました。「労働組合って何?! 一体何をしたら良いの?」、そんな初心者でも分かり易い構成で、どんどんとお話に引き込まれてしまいました。女性の声を届ける事は、男女共に仕事と生活の調和を実現する為に必要な事だと思いました。しなやかに、したたかに、女性も積極的に声をあげていきたいです!

(寄稿 女性委員会幹事 足澤 舞さん)



講師：斉藤千秋さん



グループ討議の様子

実現しよう! 安心・安全の職場。 広めよう! ディーセントワーク

10月7日は
ディーセントワーク
世界デー

ディーセントワーク度

あなたの仕事は
どうですか? チェック

～自分の仕事を見つめ直してみよう～

- ☐ 将来にわたって長時間働くことができる
- ☐ 生活できる収入が得られる
- ☐ 仕事とプライベートが両立できる
- ☐ 少なくとも週に1回は休日がある
- ☐ 時間外労働に残業代が支払われる
- ☐ 勤務先が社会保険に加入している
- ☐ 安全で健康に働くことができる
- ☐ 職場環境である
- ☐ 急なケガや病気に見舞われても大丈夫
- ☐ 教育訓練の機会があり、職場でキャリアアップが望める
- ☐ パートやアルバイトでも、正社員と同じ仕事を行えば同等の待遇を受けられる
- ☐ 処遇や昇進に男女差別がない
- ☐ 職場の問題に対して、誰でも発言しやすい環境だ
- ☐ 職場に労働組合がある

「私たちはみな人間らしい仕事をする権利がある!」

そんな声を大きくして
いかなければなりません。

連合を含めた世界157カ国・地域、1億7,000万人の労働者が結集する国際労働組合総連合(ITUC)は、「新しい公正なグローバル化」をめざして、ディーセントワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の実現を柱に掲げた世界一斉行動の実施を呼びかけています。

ディーセントワークってなに?

「ディーセントワーク」は、ILO(国際労働機関:現在183ヶ国が加盟し、政府・労働者・使用者で構成)のフアン・ソマビア事務局長が1999年の就任時に、ILOの理念・活動目標として示したもので、具体的には「権利が保護され、十分な収入を生み、適切な社会保障(疾病、出産、業務災害、失業、障がい、高齢等による経済的困難から救うための公的措置)、社会対話(政労使・労使間の交渉・協議)が確保された生産的な仕事」と説明しています。日本語では「働きがいのある人間らしい仕事」という訳が正式に使用されています。

産別・単組活動紹介

◆JAM◆

JAM山陰鳥取地区協議会は、1999年9月9日に2つの産別が統合し、機械金属産業で組織され、大多数が中小企業で中心に構成する産業別労働組合です。県内11単組・1,100人の組合員が加入し連携した取り組みを進めています。今年度は、組織強化(単組)を目的とし、構成単組執行委員のレベルアップの向上につなげるべく、神鋼機器工業(株)食堂を会場として「執行委員研修会」を実施しました。講師には、JAM山陰から川野書記長とJAM本部から遠藤組織グループ長を招き、「組合の活動について」のテーマで3時間の研修を行いました。これからの労働組合を担っていく若い執行委員も多数参加し、労働組合活動のあり方についての学習を深めることができました。

また、組織拡大の取り組みとして、足かけ6年の月日をかけ米子製鋼労組へ産別加入に向けた活動を行ってまいりました。春闘を取り組む前段で学習会等、情報交換を密にした取り組みを行った結果、2012年度から産別・JAMへの加入に至ることとなりました。

今後も、連合を構成するみなさんと連携し、積極的に組織拡大に向けた取り組みを行っていきたくと考えています。



JAM山陰鳥取地区協議会 (2010.10.17)

てんじんくらぶ

気候の変動が顕著となっている。わが国の情緒ある四季の移ろいは色あせた。今年は年始からの豪雪、千年周期とはいえ東日本大震災の破壊力、春を飛び越した酷暑、秋晴れは数えるほどに破壊力を増す台風など、気候変動は何処そこに大きな災害をもたらした。「人間は自然の前に無力」と言われるも、自然の節理を犯したのも間違いなく人間業である。▼20数年となる山裾の家。かつて春に先駆けて鶯が訪問、初秋まで美しい鳴き声を披露した。夕刻にはメジロが水浴びを楽しんでいた。しかし今年も来ないうちに、山の松にはカラスが憩いを求めている。初めてのことであるも、自然の摂理は気候の変動を確実に捉え対処しているのだ。▼国連気候変動枠組条約第3回締約国会議COP3の京都議定書は、地球環境の持続的発展を誓ったはずであるが、今日、COP15デンマークに至っても発効していない。COP15において、元ケープタウン大主教は「私たちは適応のアパルトヘイトの世界に知らぬ間に陥りつつある」と指摘している。適応格差が解消されない限り貧困社会と気候変動は解消されない」と訴えている。貧困への挑戦と気候への挑戦は同一課題である。(井)



連合鳥取活動紹介

青年委員会「ユースターレクリエーション」

- 10月15日(土) 受付9時40分～/開会10時00分～
- 森の国大山フィールドアスレチック(大山町)

- ◇規模/60名程度 ◇内容/フィールドアスレチック&バーベキュー
- ◇注意事項 運動のできる服装
- ◇参加費 大人:一人1,500円(産別負担) 子ども:無料
- *詳細については、青年委員会よりご案内しています。

ユースターとは・・・

昨年、連合が青年委員会の更なる拡大と女性の参加促進に向け募集した青年委員会の愛称。「ユース(青年)」と「スター」を組み合わせた造語。

中部地協・西部地協合同開催2011「連合の森づくり」

- 10月22日(土) 9時40分～13時00分
- レークサイド大栄(北栄町)

- ◇規模/80名(中部地協・西部地協と合同開催)
- ◇参加要請/各地協より要請
- ◇実施内容/①苗木の植樹による森の再生と自然環境保全の意識養成
②産別交流会
- *詳細については、各地協よりご案内しています。



中部地協「ワーク・ライフ・バランス学習会」及び「政策討論集会」

- 10月22日(土) 14時00分～
- 湊泉閣(三朝町)

- ◇参加範囲/中部地協各単組三役2名/地協四役・幹事
- ◇日程/①主催者あいさつ ②ワーク・ライフ・バランス学習会
③政策討論集会・単組紹介・議員活動報告・分科会(グループ討論) ④懇親会

連合鳥取「セイフティネットワーク集会」

- 10月下旬
- JAM神鋼機器工業労働組合

- ◇内容/神鋼機器工業(株)の労働安全衛生の取り組みについての学習・意見交換・工場見学等
- ◇参加者/連合鳥取執行委員構成員 他(約10名程度)



再生紙を使用しています